1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200869		
法人名	有限会社ミセスヘルパー		
事業所名	グループホーム喜楽苑		
所在地	山口県宇部市大字西岐波5224-3		
自己評価作成日	平成26年6月2日	評価結果市町受理日	平成26年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念を基に、グループホーム独自の理念を掲げ、利用者一人ひとりのペースに合わせて安心して過ごせるよう支援している。通院介助を行っており、受診記録を作成し利用者一人ひとりの健康状態の把握と管理に努めている。また、訪問看護や訪問歯科による検診で指導助言をもらっている。利用者の平均年齢は上がって、ADL低下もみられるが、苑での生活だけではなく、外出もできるように個別支援に重点をおいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護計画とモニタリング、思いの把握、ADL等身体状況、当該日の介護記録等、全てが一目でわかるように大判のカードックスを活用しておられ、利用者一人ひとりの今日の様子を見つけ出し、具体的実践や計画の見直しに活かしておられます。外部研修は情報を職員に伝えられ、職員の希望や段階に応じて常勤、非常勤を含めて全員に勤務の一環として受講の機会を提供され、受講後は法人研修やミーティングで報告し全職員で共有しておられます。法人研修は年間計画に基づいて毎月実施され、内部研修はミーティング時を利用して研修を実施しておられ、新人は先輩職員を指導者として働きながら学べるようにされるなど、職員を育てる取り組みをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☒	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☒	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☒	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	☒	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	☒	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を念頭において、地域密着型サービスに基づいたグループホーム独自の理念をもとに日々のケアに繋がるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、ケア会議の中で話し合っ共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練に地域の方に参加していただけるように声をかけている。また、初詣や節分祭・買い物等を通して地域の方との交流に努めている。	自治会に加入している。地域の神社への初詣や節分祭には利用者と一緒に参加している。法人が開催する喜楽苑祭りには地域の各家庭にちらしを配り、地域からの参加を勧めて交流を図っている。西岐波地域交流センター利用者の活動発表の場を提供し利用者と交流している。保育園児との交流会や職場体験で来訪の中学生、看護学校実習生、ボランティア(フラダンス、コーラス、民謡、三味線、大正琴、銭太鼓、剣玉、朗読)で来訪の人と交流している。近所の人とは散歩や買物時に挨拶を交わしている。近所から野菜の差し入れがあり、ケーキを作ってお返しするなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習や、看護学生の実習の受け入れを実施している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価及び外部評価の結果は職員全員で把握し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解して、ミーティングで評価項目毎に全員で話し合い、管理者がまとめている。自己評価をとおして、介護度と介護時の安全性についてや利用者個々の活動の程度について全職員で話し合いサービスの質の確保に活かしている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立てモニタリング記録等の改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、地域の方・利用者家族に参加していただき、ホームでの活動報告や利用者の状況報告・外部評価の報告・意見交換をしてサービスの向上に努めている。	新メンバーとして地域包括支援センター職員と地域にある相談室の代表者を加えて年6回開催している。開催日を家族会や避難訓練と同日に行なうことや地域交流会（西岐波地域交流センターの活動発表の場と利用者の交流）の見学、テーマを決めて取り組むなどの工夫をしている。災害対策や感染症予防についての意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて高齢者総合支援課・地域包括センターと連携し相談や情報交換をしている。	市担当課とは運営推進会議や電話、直接出向くなどして情報交換や申請の相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や電話などで情報交換や困難事例の相談をしているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを基に法人で研修会を実施している。利用者の行動においても職員全員で情報を共有し、見守りながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。	法人内研修を通して職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは一緒に出かけたり、その原因について職員間で話し合いを行い、介護計画を立てて個別に取り組み、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に法人で研修会を実施しており、虐待についての理解を深め防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は活用している利用者はおられ、今後必要とする利用者に対しては関係者と話し合い、活用できるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・利用者のご家族には十分な説明を行い、理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望や意見を聞き、運営に反映させるように努めている。また、相談・苦情については受付窓口を分かりやすい所に明示し、処理手続きを定め周知し、運営に反映されるよう努めている。	相談苦情の受付窓口や第三者委員、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。運営推進会議時や年4回ある家族会、家族との交流会、面会時、電話などで家族から意見や要望を聞いている。衣類の紛失防止のための記名や利用者の活動量を増やしてほしいなどの意見を活かしている。家族会から運営における家族会の役割について職員の意見を求められるなど、家族とは話し合いをしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、また必要に応じていつでも意見や提案を聞く機会が設けられており、運営に反映させている。	月1回の職員会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で管理者が職員から意見を聞いている。各ユニットへの衣類乾燥機の整備や研修を勤務の一環として実施することなどの意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や職場環境など少しずつ改善されており、職員一人一人が向上心をもって働ける職場環境・条件の整備も整ってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	非常勤も含めた職員全員が研修を受ける機会があり、各ユニットにリーダーを配置し働きながらトレーニングを行い、資格取得の機会を得ている。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出して法人研修やミーティングの中で報告し全職員が共有している。法人研修は年間計画に基づいて、全職員を対象に月1回、法人事業所の職員を講師として研修(食中毒や緊急時の応急処置、尊厳、虐待防止、身体拘束、認知症ケア、接遇等)を実施している。事業所内ではミーティング時を利用して管理者がその都度テーマや重要なことを再度確認し指導している。新人は、2ヶ月間、職場内で先輩職員を指導者として日々のケアを通して介護の知識や技術を学んでいる。同業者との研修会に全員が参加し、情報交換や研修、交流を通して学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に加入しており、ブロック研修会に参加し、勉強会や交流・情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談や家族などの情報にて不安なこと・要望などに耳を傾けながら、安心できるための関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談にて困っていること・不安なこと・要望をしっかりと聞いて、それに添えるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の家族の面談にて、本人と家族がその時に必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という壁を作らず、お互いに支えあえる関係性を築いていけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時に日々の様子を伝え、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	職場の同僚や趣味仲間の友人、近所の人、家族の来訪がある他、家族や大切な人との関係が途切れないように手紙や電話の支援をしている。馴染みの商店での買物や食事、馴染みの美容院の利用、元住んでいた家付近のドライブの他、家族の協力を得て一時帰宅や盆、正月の帰宅、法事、墓参、仏様を拝みに帰宅、結婚式、外食に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員全員が把握し、孤立することのないよう利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や利用者家族にも、これまでの関係性を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面談にて、思いや暮らし方の希望を聞き、意向の把握に努めている。また、状態の変化により困難となった場合も、それに添えるような近い状況を作るよう、本人本位に検討している。	入居時にセンター方式のシートを活用して本人、家族から思いや意向の把握に努めている。入居後も日々の関わりを通して言葉や対応の中で分かった思いや意向を追加して記入し、把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い本人本意に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報に加えて、家族や利用者との日々の会話などから把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・心身状態など、個人別に記入しており、日々の現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人・その他必要な関係者や職員全員で話し合い、意見やアイデアを反映しながら現状に応じた介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向、主治医の意見を聞いて参考にし、月1回のケアカンファレンス時に利用者を担当する職員と計画作成者を中心に職員全員で話し合い計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。要望や状況に変化が生じた場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。利用者一人ひとりの「ケアプラン」、「私の姿と気持シート」、「ADL等身体状況」「その日の介護記録」を一面で見ることができる大判カードックスを活用して、職員間での情報の共有を図り、実践や見直しに活かしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを使用することにより、利用者一人一人のバイタル・水分量・食事量の記載やケアプラン・モニタリングの実施状況を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望にて外出したり、柔軟な支援やサービスができるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ利用には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族と話し合い、希望の医療機関と連携し受診支援や情報の伝達を行なっている。かかりつけ医の希望も多く、受診記録を家族と共有している。	利用者それぞれが希望するかかりつけ医となっている。受診は家族と連絡を取り合いながら、他科受診も含めて事業所が支援している。受診後は電話や口頭で報告をして共有している。協力医療機関から月1回の訪問診療がある他、緊急時の対応や困難時の相談への対応など支援を得ている。訪問看護師が2週間に1度来訪し、利用者の健康管理、医療面での相談への助言や指導を受けているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	二週間に一回訪問看護に来ていただき、利用者の個々の状態を記録し伝えている。都度、助言や指導を受けて状態に応じて適切な受診ができるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、職員が同行し情報交換を行っている。また、入院中も退院に向けての相談も病院関係者と連絡をとって連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針・同意書を作成し、本人・家族と話し合っ方針を共有している。病院・訪看・家族・職員でチームケアに取り組んでおり、今年度看取りを経験している。	指針があり、契約時に家族に説明して、同意書をとっている。実際に重度化した場合は早い段階から家族、主治医、訪問看護師等関係者と話し合い、方針を共有してチームで取り組み、医療機関への移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを基に法人で研修会を実施している。今年度は消防署にも来ていただき緊急時の対応について研修会も予定している。また、事故やヒヤリハットに関する報告がある時は、職員全員で検討している。	ヒヤリハット、事故報告書に原因や再発防止策を記録し、ミーティングで話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人の研修会で応急手当や初期対応の研修を実施しているが実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を消防署立会いの下、年3回実施しており、避難経路を明確にしている。また、避難訓練は自治会の方にも声をかけて協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て年3回(隣接法人3施設と合同)、昼夜の火災、水害を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者、運営推進会議のメンバー(1回)と一緒に実施している。自治会には訓練や災害時の協力を働きかけているが協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人でプライバシー・尊厳の保持に関する研修を実施している。日常的にも利用者に対する声掛けや尊厳が保持されるケアの徹底に取り組んでいる。	法人研修を通して職員は人格の尊重とプライバシーの確保については理解しており、「人生の先輩として敬う」ように接し、利用者に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導している。個人情報の取り扱いには注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散歩など外出の希望があれば実行し、日常生活の会話の中から本人の希望を聞いたり、自己決定できる環境を作るよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合わせての起床時間や入浴時間を変更したりとその人のペースを大切に、その人に添った支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、整容に関してはさりげなくカバーしておしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは職員が行っているが、お盆拭きや台拭きは利用者にも手伝ってもらっている。利用者と一緒に食事を摂って、食事を楽んでもらえるようにしている。	食事は法人からの配食を利用している。事業所では朝食と三食ともご飯を炊き、汁物をつくり、週1回は麺類による昼食づくりをしている。利用者は野菜の下ごしらえ(芋の茎の始末、シソの葉を取る)や台拭き、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて会話をしながら食事をしている。利用者が収穫した季節の野菜が食卓にのぼり、会話が弾んでいる。食後やおやつ時の飲み物は好み(コーヒー、お茶、牛乳、ヨーグルトなど)を聞き、外食や弁当を持って外出するなど変化を持たせて、楽しい食事となるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録し、一人一人の状態に応じた食事形態(ミキサー食やパン食・刻み食)で支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じて毎食後口腔ケアを実施し、毎日の義歯の洗浄を支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンや行動で声掛けをすることによりトイレで排泄できるよう支援している。	排泄表に記録して利用者の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は毎日チェックし記録している。飲食物を工夫したり、腹部マッサージをしたり、必要に応じては主治医の指示にて服薬も介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、個々の体調や希望に添っていつでも入れるように柔軟な対応をしている。	入浴は毎日10時から11時30分までと、13時30分から15時30分までの間、利用者の希望に合わせて入浴できる。個浴とし、湯温など本人の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。菖蒲湯や柚子湯など季節を味わえる工夫をしている。入浴したくない利用者には無理強いしないで言葉かけの工夫やタイミングを図り、時間を変えるなどの工夫をして対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の利用者・体調によって休息が必要な時には、安心して休めるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルし全員が理解している。薬は手渡しし、確実に服薬できるまで見守っており、症状に変化が見られた時は、受診時や往診時に必ず医師に伝えている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴をふまえて、一人一人が充実し楽しく過ごせ、気分転換できるよう支援している。	新聞や雑誌を読む、テレビ、DVD視聴、歌を歌う、ぬり絵、紙細工、じゃんけん、ピンポン、ボール遊び、紙風船、双六、カルタ、ことわざ遊び、計算問題、ドリル、ゲーム、散歩、ボランティアの来訪、掃き掃除、ゴミ捨て、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑の草取り、野菜の収穫、食事の下ごしらえ、お盆拭き、台拭きなど楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出・日帰り旅行やドライブ等できるよう支援している。	近隣の散歩や買物、美容院、近くのお地藏様参り、季節の花見(桜、菖蒲、紅葉など)、初詣、ドライブ(自宅周辺、宇部空港、常盤公園、県庁など)、サファリーパークへ日帰り旅行、みかん狩り、リンゴ狩り、花火大会、外食の他、家族の協力を得て仏様を拝みに自宅に一時帰宅や墓参、法事や結婚式への参加など一人ひとりの希望にそって出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には個々の預り金を持って行き、使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば繋いでいる。また、手紙も同様に希望があれば投函している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は静かで広く明るい。適宜、換気し温度や湿度も調整し過ごしやすい環境作りをしている。ゆったりしたソファや和室がある。玄関先の花壇やプランターの花など季節が感じられるようになっている。	玄関には小さなテーブルと椅子、季節の花が置いてあり、訪問者や外出から帰った時に、ほっと一息つける場所になっている。リビングは窓から山の緑を眺めることができ、明るく広く、机や椅子、ソファ、テレビ、金魚の水槽がゆったりと配置してあり、利用者はそれぞれ思い思いの場所で過ごしている。台所から聞こえる調理の音や食器を洗う水の音は生活感を感じさせる。共用空間は清潔、温度、湿度、換気に配慮し、壁面には誕生日毎の利用者氏名と写真、季節の紙細工が飾ってあり利用者にとって居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で横になられたり、ソファも分けて置いてあり、好きな場所で過ごすことができ、気の合った利用者同士で談話したりとゆったりした時間を過ごせるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には衣装ダンスやイスなど馴染みの家具が置いてあったり、写真などが持ち込まれその人にとって居心地良く過ごせるように支援している。	4段式衣装ケース、洋服かけスタンド、椅子、テレビ、生活用品など使い慣れたものを持ち込み、カレンダーや家族写真を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りで安全である。居室の入り口には表札と写真があったり、トイレや浴室も表示して分かりやすくなっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム喜楽苑

作成日: 平成 26年 11月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施を予定していたが、消防との都合がつかず実施できていない。	職員研修として消防による応急手当・初期対応の訓練を組み込む	職員研修に組み入れて、職員全員に消防による応急手当・初期対応の指導をしてもらう	12ヶ月
2	36	災害時・地域との協力体制を構築していない。	防災訓練時に地域の方に参加してもらい、地域の方との交流を深める。	年3回の消防訓練時に、地域の方に参加してもらい地域の方との交流を深め、地域との協力体制を構築できるように努める。	12ヶ月
3					36
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。